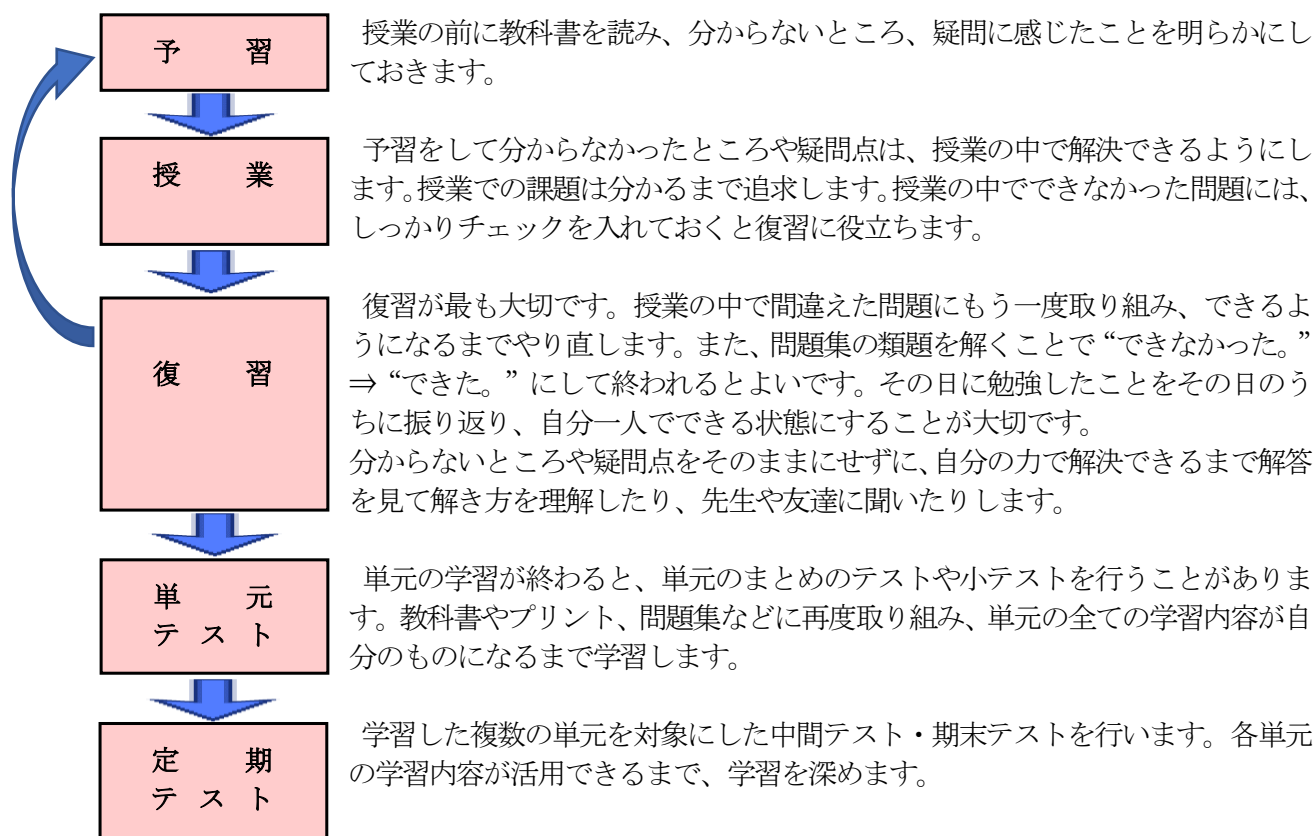


## 【数学科編】

### 1. 学習方法

#### ①学習の流れ

数学の学習は、短時間でもよいので毎日学習すると力がついていきます。  
次のような流れで学習に取り組むとよいでしょう。



#### ②問題演習

数学の知識・技能は自分一人で解けるようになるまで、くり返し問題を解くことが重要です。解けない問題があるときは、授業の課題として解いた例題に戻しましょう。どのように解いたのかを読み解きながら思い出すことで、解けるようになるきっかけになります。



### 2. ポイント

☆数学における決まりや性質は確実に知っておこう。

計算のきまりや図形の性質などは確実に覚え、使えるようにしなければなりません。そして「なぜその性質が成り立つのか。」や「なぜその公式が成り立つのか。」など意味が説明できるようにしましょう。ただし、意味はあとからだんだん理解できることもあるので、まずはしっかり覚えることが大切です。

☆計算方法や作図方法は確実に身につけよう。

計算や作図の技能は、体に入れ込みましょう。そのためには、身につくまで何度も何度もくり返し行う反復練習が大切です。身についたと実感したら時間も意識しましょう。「早く正確に」が合い言葉です。

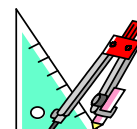
☆身につけた知識と技能を使い、考え方を深めましょう。

身につけた知識と技能を活用し、応用問題にチャレンジしてみましょう。問題に触れることで、考え方やアプローチの仕方を理解し、数学の考えの引き出しを増やしていきましょう。

### 3. 評価の観点と方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書に出てくる用語や公式などを理解し、使うことができる。</li> <li>教科書の例題や練習問題を解くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの問題と数学で学んだことを結びつけ、筋道を立てて考える力を身につけている。</li> </ul>	数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、粘り強く考えている。学習を振り返ってよりよく問題を解決しようと自らの学習を調整しようとしている。数学で学んだことを生活や学習に活用しようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト</li> <li>小テスト（単元テスト）</li> <li>授業中の発問に対する解答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト</li> <li>小テスト（単元テスト）</li> <li>ワークシート</li> <li>授業中の発問に対する解答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト</li> <li>小テスト（単元テスト）</li> <li>授業態度</li> <li>提出物の取り組み</li> </ul>

### 4. 授業の受け方・ポイント



○例題をしっかりと理解しよう。

数学は毎時間、その単元の中の新しい例題を解きます。その例題を基にして、類題を自分の力で解けるようにしていきましょう。

○積極的に参加しよう

板書の例題の解き方をただ写して終わりにするだけでは解き方や考え方は身につけません。新たに身につけた解き方を使い、自分の力で問題を解きましょう。みんなで考え方を話し合う場面では、積極的に自分の考えを発表しましょう。人に自分の考え方を説明することで、考えが整理されさらに理解が深まります。

○いろいろな解き方や考え方をしてみよう。

数学の答えは1つですが、それを求める過程（考え方）は複数存在するものが多いです。いろんな考えをもち、数学的思考をより深めましょう。

### 5. 家庭学習

○定期テスト前にまとめて勉強しても効果は薄いです。その日の学習をその日のうちに復習し、定期的に振り返ることを繰り返すことが大切です。

○ワークや問題集など、解けない問題で長時間悩むのはやめましょう。分からなかったら解答を見て、考え方や解き方を理解し、改めて解き直した方が効率がよいです。

数学科担当	笠原竜二 大林千恵 山中樹 小島陽介
-------	--------------------